KODAK Color Control Patches
© The Tiffen Company, 2000
Kodak LICENSED PRODUCT
Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black
A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

ル4
3749
3

門ル4
3749
巻 3

弘仁十年三月縁

春日

興福寺

八京

元興寺

興福寺

東大寺

二月堂 并 指図

西大寺

法華寺 并 佐保の池

三輪

大安寺 并 指図 十二楼

般若寺 并 宮方 飯

薬師寺

招提寺

早稲田大学図書館
昭和25.10.2
購入

遊遊雜三

春日

春日大明神ハ天照大
神ノ御ノ子ノ命也。神道ニ子孫
ハ兄屋根命也。神道易ハ元初ノ事ノ
ハ天照大神ノ御ノ子ノ命ト云
ハ天照大神ノ御ノ子ノ命ト云
ハ天照大神ノ御ノ子ノ命ト云

天児屋根命下 中臣氏ハ 姫太神 天照大神の孫なり

又若宮九流屠氏の祖業地勅ゝ ともつかり

天児屋根命ハ神乃事をつかさどれる家なり源ゝ

ゝつまて 国の長下ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ

むとも ゝ ゝ 爰原氏の元祖ゝ 神護景雲元年

六月廿一日常陸国麻績ゝ 雷命ハ 三熊

よのつまたまひ 榊の枝を 報ゝ 伊勢名張の神

みまゝ ゝ 中臣乃連 貞風 彩 ゝ 信 ゝ

国 ゝ 年 四月九日 三 山 ゝ ゝ 奇 ゝ

命下ハ ゝ 給乃 ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ

河内国 牧 ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ

祭ゝ ゝ 所の神 ゝ 山 ゝ ゝ ゝ ゝ

貞観元年十月九日 ゝ ゝ ゝ ゝ

続千載神祇

春日山わけ入る ゝ 乃月 ゝ ゝ

中臣祐茂

春の日を ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ

後成

いにしへ神 ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ

周防内侍

続後拾

春日なる ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ

素暹法師

一 ゝ 日の神 ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ

猶うてそうへなまぬ。夏すぎ行う江ふ。ほうり
去日乃稲賀こうの最よりより。楽ぐりとに宿ちごめ。日
と絶てあくをかとこをゐめぐり。日記はうりて命を
をたうにうと云うぎ乃絶うれどもぬ関みうこと
先一句句大。今うとりあくつぐうくあうつうさし
とゐ行きば。ふくハ関此あり。はふふ行刀の草
葉ハうりうり一対もたびく影の絶をどゐり
まりきうは。義句はうまうあ行磨海剤の上
うて邊底よおとこまぬめく一ふ冊とゐ
行うとぬさびうゐ月ひんとすきバ今うど月紙ことわ
つてぬ絶乃初をとれよりゆうぬうれよ絶で

の紙帯年屋くゐ行きは行う新よううえお
らゐ句紙数ゐ行う年よあ句書つあんぬとく
墨句をそぐてんた先うてハゆめくあうび
行乃まをすうや影の絶を吏
猫深の浅ゆえうまや所まうり
かうやう乃句もうくゐ貞徳義よゐ也行う対ゐ紙ハ
絶紙ちと絶句よ主うう紙義の了留まて絶
ち吏ちうハく。ミの句ゐ一てう言ハ屋しと。ゐ主
とうふのうけたうりぬ乃句ゐそれちく鈴を
べーと春望といふりのよ俳でぬ絶ゐを行ゐし
とれ。合鈴うり。俳紙ちうもうあよゐるーゆ。民緩

ふれるむさしはみちのくにづけ一冊。みちのくの猿
としつ。ゆかしこれ。うつ。信濃の。ころ。半ばぐち。紙
袖中。の。格。人。歌。ぬ。り。に。ゆ。さ。一。面。恋。に。後。で。老
耳。と。ち。こ。ま。ら。れ。再。三。八。ま。雄。よ。ま。ゆ。と。ら。れ。付。雲
巻。行。あ。ど。し。も。と。ひ。の。き。ぬ。ま。ば。ば。ち。乃。人。の。面。仮。り
ば。か。う。ひ。ち。の。ま。ま。づ。ま。ち。こ。ば。ち。ま。ち。の。ら。ま。ば。ち。ま。を
人。の。句。と。和。行。ぬ。和。り。ち。う。り。ち。句。毎。ち。手。わ。か
た。乃。ま。り。て。行。ら。也。和。ち。の。浦。ば。ん。と。ら。ち。ち。ち。乃
ち。も。ぐ。ば。り。絶。乃。句。と。奪。ん。ち。し。わ。ん。や。ち。ち。も。わ。づ。れ
ち。ち。す。ち。と。れ。ち。ち。人。あ。ち。ま。ぐ。こ。れ。や。こ。の。ゆ。ち。り。ち。も
ち。ま。て。ば。ち。ち。ち。ち。ぬ。も。ち。仮。乃。同。ば。す。輝。ち。也

ち。ち。た。ち。ち。ば。ば。ば。の。集。と。ち。ぐ。ひ。ち。ま。ば。だ。の
す。一。字。と。た。ち。ば。こ。れ。ち。り。和。ば。り。と。ち。人。と。ち。人。の
ち。ち。人。ち。ち。句。ば。り。ぱ。ち。ち。ち。十。久。字。仮。七。字。乃。内。ち
ち。ち。ち。ち。

三位山やうろう代よりふる宮社あり
ゆゑ寛文七年夏六月ぴあとそひ清書の祈
り作とし句あり先仏ちいつこふるりとありとい
へ共余ぐ句等新せんため毎月書付行ぐさて
御祭の清水八安六月ふ田楽あり雑程先ふの機
とそ八ゝと雪流清馬あり九七日御殿のあり
仏人の祭あり絵地は大名屋と毎りぶくて猿楽
乃舞あり田ふのふむ猪ぶありぶこつちろ紀猪
侍待能を見ぐさ紗紗りを見つるとり鞠と
り鞍掛奥とかさりとぶいりめ〜さてつるとり
和ろりいりぶり毎乃御およ相撲あり廿八日より

能ありかりとう弁ふ神事つまびりうこ
くさこと〜行ふ当社廿一年目に生ふ毎り
御猫所ハ毎年うり立

薪能事

一薪乃能は。南大門乃前。莫の庭にてあり。毎年
月六日より二月六日まで。はじまりそ乃
ゝそ。ふこ乃ぐ。結構お幸ゝらもゝ乃ゝ面
しふ。猿楽うゝひ。ゝ乃ゝ。ゝ乃ゝ。ゝ乃ゝ。
ゝ乃ゝ。ゝ乃ゝ。ゝ乃ゝ。ゝ乃ゝ。ゝ乃ゝ。
大門乃ゝ。ゝ乃ゝ。ゝ乃ゝ。ゝ乃ゝ。ゝ乃ゝ。
振面乃ゝ。ゝ乃ゝ。ゝ乃ゝ。ゝ乃ゝ。ゝ乃ゝ。
ゝ

ぢこのうらかたは役ゑのうらかたはさてさて都わりぞうえ
をまぜたゝみのつくこたゝ紋と地あり中間穴のうつみ
あり子ゝ也義之のまゝ。義は天照大神ゆゑ御
春日大明神。尉は住吉大明神とあり。たゝかい
ちゝ。物ゝ也とゝいとゝれもとのこゝあくさんを粗せて
て物ゝとゝちゝめつゝちゝ紋ハさ陰で書ゝとむ。きこ
あゝ。ゝ又ゝ紋ゝ物ゝ也ばづまを見とせんや。横
筋のまゝみの穴ゝよんゝ穴ゝまゝあゝとやらんで
の穴ハ下ゝ也下の穴ハ三ゝ越。下の穴ハ平綱上の穴
ハ双綱。外ゝ穴ハ男結。中の穴ハ鶴結。六の穴ゝ
ゝ也。ゝのゝゝ。ゝ一綱ゝ

乃穴のうらかたは一綱ゝあり。ぢこのうらかたはてづくきゝ
ゝり。又高角綱ゝのうら綱ゝと十二まわりつゝゝ
裏綱はい侍。下ゝ也用ゝ。ゝのゆゝよ一律ゝ
とゝとゝ。たゝみのつゝこゝりハ陽ゝ表ゝ。
たゝこゝりハゝ陰ゝ裏ゝ。ゝれとゝ見ゝ。
ゝゝ。ゝのゝゝまつゝゝ。ゝのまゝゝ。
なゝまゝ。ゝゝ云ゝゝとゝ見ゝゆゝゝ。ゝ結者
とゝゝのゝとゝゝのゝゝ。ゝゝ。ゝゝ。
ゝふゝのゝん役ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ。
ゝ。ゝ。ゝ。ゝのゝゝ。ゝゝ。
ゝゝゝんゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ。
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ。

役ちとそぐて役ちはちをとりをいあらさ傳り
ちくちをにまり行雷とんこ作ふ。ちんにろみちを
えるるーぽれ仕年のころあるおりてたお
報うろぐくう獄ー

あくちやはを和子ひちつとこう
とにをくくすを寄角人ちを
一水管神事結毎年宝月うろうと五月まで
これあり

八京

南園雲藤　夜波八神乃ことの花なまて
八ちよとけて行やあまん　太政君基

左宝河雲　さかがハのうろ
あらせよ海さうとそ　前右大臣

嵯峨池月　さがさハのいけのつき
のこれふたなそこ　夜原雅重

春日野鹿　かすがのしか
かんなかよりあ　ひとりさむしうん
野てよ　右中納言

三笠山雪　みかさやまのゆき
ことさ山　ふかきん
ふかを神やこ　前大宰大弐後

雲居橋岡　くもゐのはしおか
ひきめのこ　ひとあまに
みなこの　ちえよ
をく嘉　橋中納言定
東大寺鐘　とうだいじのかね
ちるふ　ちるふ
ちるを　ちるを
ちるを　ちるを
ちるを　ちるを

元興寺

聖徳太子の御建立なり。法興寺とゝひしを推古天皇乃御ぐうよりたまはりて元興寺と号ス。
そのゆゑ蘇我の恵灌といふ僧来朝ありてぜ
ちりきりとりて百濟乃恵聡も仏教をひろめ
六町宇方勅願所の大伽藍をひらきしのこ
ろもろのかたちへとはそのあゝ塔のこりつわる
えんのかぐぜとゝふはまことにまことにまれ。
むし山塔よりぐけ和をむしいひ。言れハんも
かようにとゝ迄ぞれてさるものゝうゑせきま
ゝよりうして元興寺あるの名よりそんとゝふ

とがごぜうかまそんなるくにごてぞうの免行う
ぎうぞちもあもわづ志ぬ此國ゐれいぞづこう屋四
月ゝるろくんよどろうあうんうう猫杓のまぎ雷隆
魍魎とわやしむぞまし元明ろ月ろ下ろも
雲合雲八十一面観音観世也

興福寺

きたは藤原の氏の墓の山なり。山階の里とうあるとしにたりて。山階寺と号す。

又は大織冠鎌足の像也。

元明天皇の和銅二年。大わふうつをたまへり。

聖武の天平十一月。藤原大臣と称す。

うしろまつりの人とれを。

たまへを。父の御さめ藤原氏のはぐくみ給へる

ひとりまつりの義天皇の御うつり。

五さ物たまひ。墓御

明皇后の西金堂。

安堂。

乃至南無堂は。仁王五年。

乃至。不空羂索。

新古今。補陀洛や。

西方。如来。

若波羅寺。

維摩会。

十月十

きーこ。

御堂。

乃至。

御堂。

乃至。

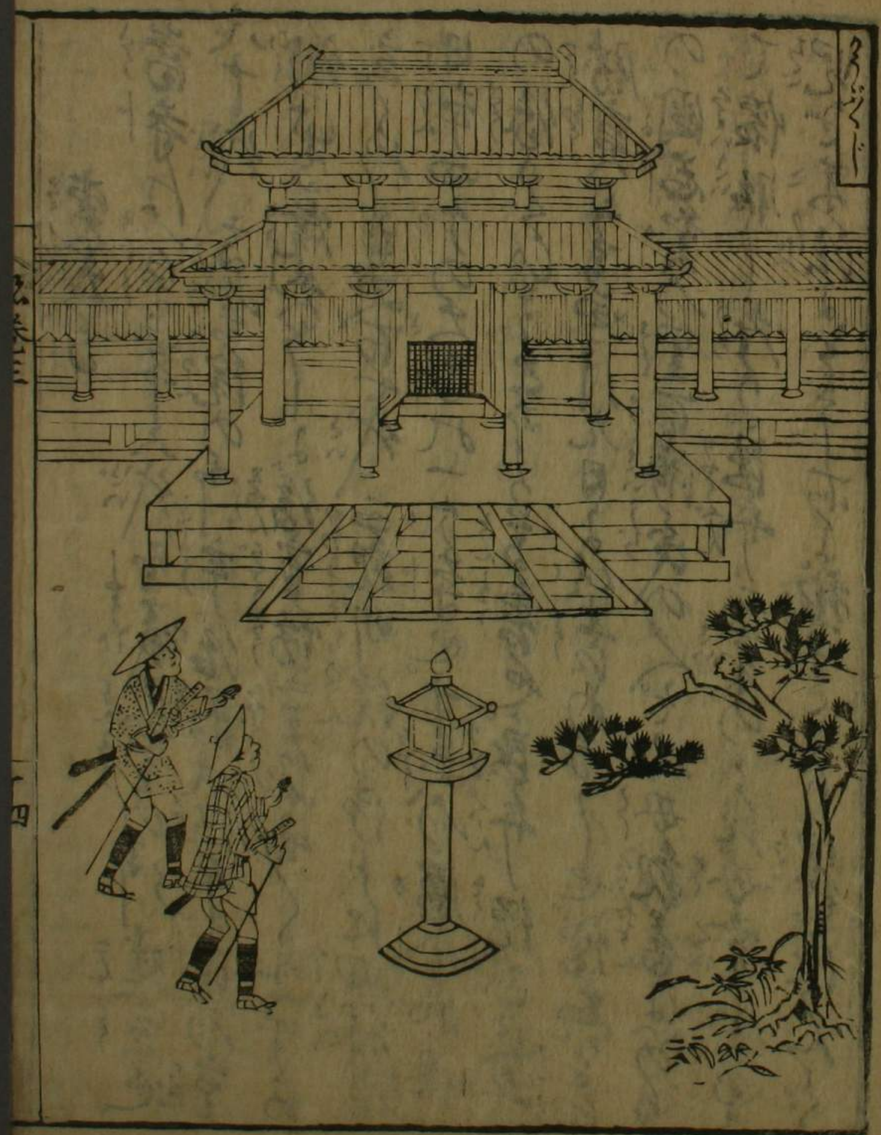
御堂。

乃至

まごゝ見ゆゝ。と銭をわさに巻て海うゝ家のむ
とゝぶるり

山るうりひうゝ家ハ五ツ寸ゝ

一薬堂ハ　阿弥陀　一如来堂ハ　弥勒
一八重塔ハ　大日　一食堂ハ　千手



東大寺

當寺は人皇四十八代聖武天皇の御建立也。
八十代高倉院の御宇、治承年中、平氏乃亡
滅ゆる焼失せしより後、堂塔伽藍ともに
立ておくもの百七代、西園寺院の御宇に再興
日本四十の大仏一ケ寺也。十丈の盧舎那佛
の像ことごとしきなり。弘安四年
勝寛三年四月九日より供養ありし也。僧正公
の國忠奏乃宣旨、源氏の人々乃母親なるよ
て懐胎し給ふ。弘安二年のころ母親をとる
呪を未法よりとり。祷るさきうり。呪をたんぐ

うる。母かのひとけうを遣りけよ。母をとうり
孫。三年餘年、家より出て、彼方を祷と
弘ひまうし。梅南都の義国とて、信春日の社
うまうでられ。たなる師より祷乃呪をたづさ
にくうつうをんひをとりとめ、ひとりにはちごをとりとめ、ひとりをとりとめ、ひとりをとりとめ、ひとり

まくとうひとうのぶくわ姫いき傷とたどり
つとあらうんとあやとうけごろに母そのうこがひさと
まわると寺ぶ児乃とこに一さん一分の観音乃像を
きごろん願りうけうと粉しあり。鶴乃ひたくあるが
もありぞ。とと悪乃像今よりやとうぶ弁さと
ていうとうまの。鶴とよりわとたとわの観音乃
像とともありと。ニさうび母子の獅子と老母と院
側ゆとうて書つと。長寿ハ意ぶ子宝ゆり信の
とうり。寛永寺ぶ国十二月十六日ぶ年と大仏ハ
天平勝宝元年十月廿ぶ始まるぶ也
月乃ぶとたくはんの鶴の元りか

一鶴の前乃間ぶ鶴の屏風あり。聖武天皇ぶ
附ぶ大ちぶ付属しぶ也。京都ぶ多のさ
ぶて。新幸ありてごわを用ひ也。鶴乃ぶ
ハ眠ぶまの。

一増寺ハ幡の文おうて

あくの時をしやハまん経

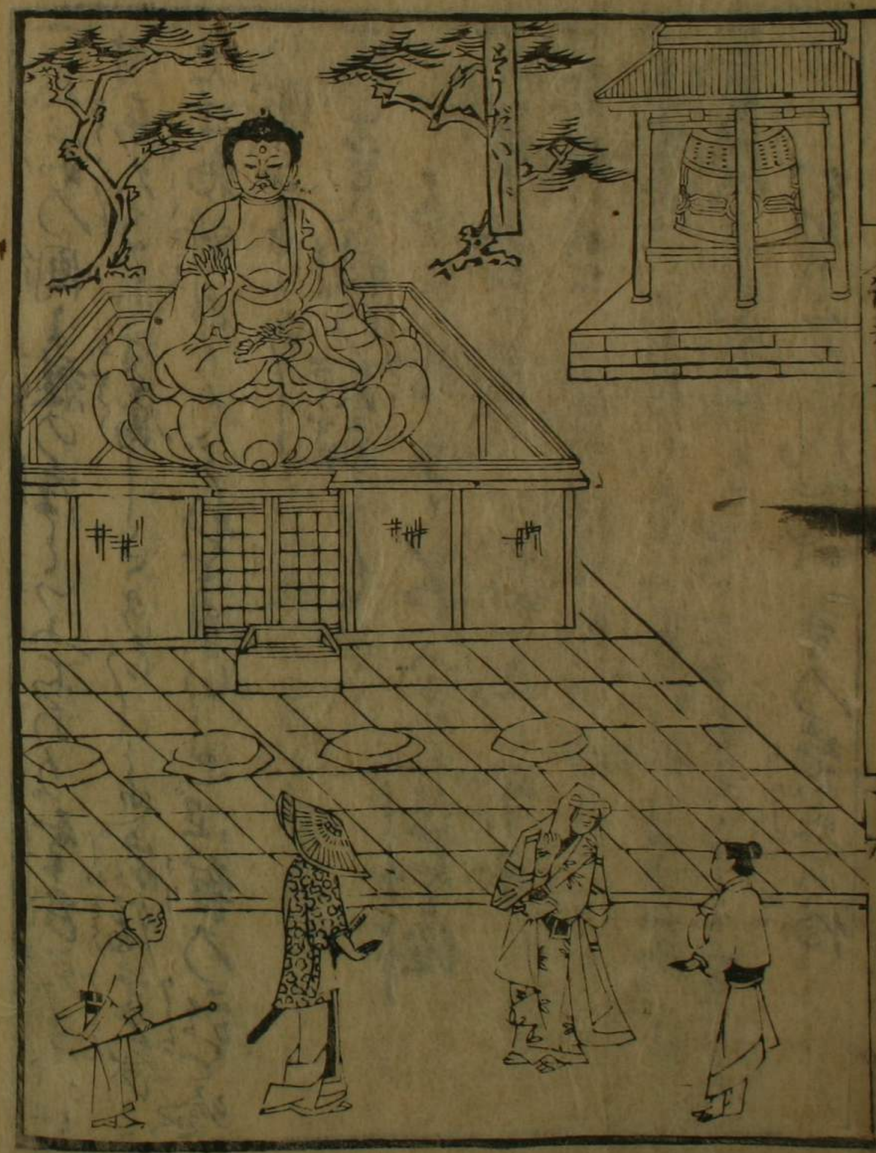
一法華堂ハ観音一千体

一念仏堂ハ地蔵仏金れ

一高野院ハ宝海開基 一高野山

一寛永寺ぶ蘭奢待ぶ

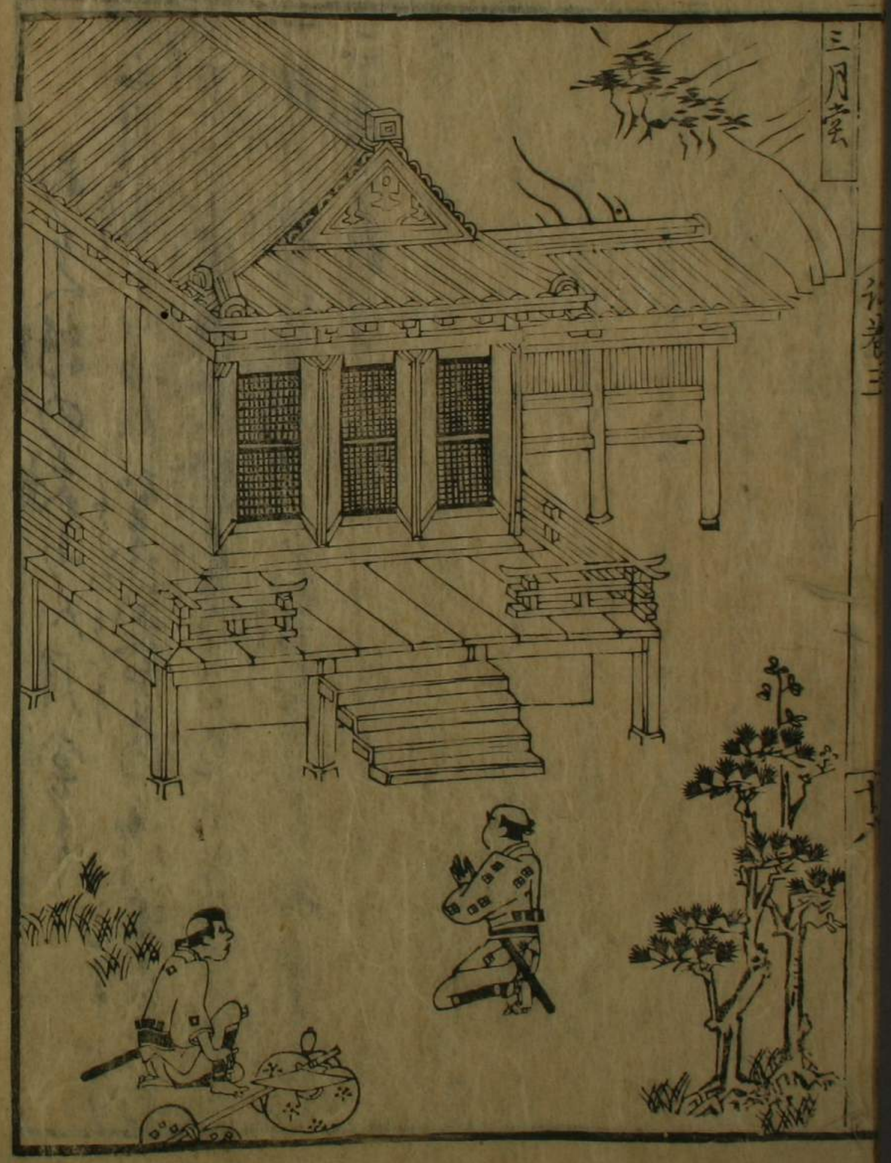
かりくか風やはぶ寺乃紫雲ぶ



二月堂

良弁僧正の弟子實忠和尚のはじめたてまつりし所なり。摂州難波の津にいでゝ海にたちたまひきこゆる間仏鉢をひろひ給ふ。中ふ鉢にて七すの天悪鬼乃像あらはれたまふと。帝大そうこんけ。栗太郎安重しきりに毎年二月一日より十日まで都率の法をとなへつゝ。此年天平勝寶元年ふらぐまわりのをこなひとなりぬ。天平寶字元年より二月堂のたてまつりとなりぬ。天平二月堂と申すは百日の涅槃会あり。実忠和尚とくさうけて仕へ給へり。多くの神とくさうけて君臣のこゝろざしあるとれば

[illegible]
の二の鳥居あり[illegible]
此樹[illegible]
[illegible]
の年[illegible]
[illegible]
[illegible]



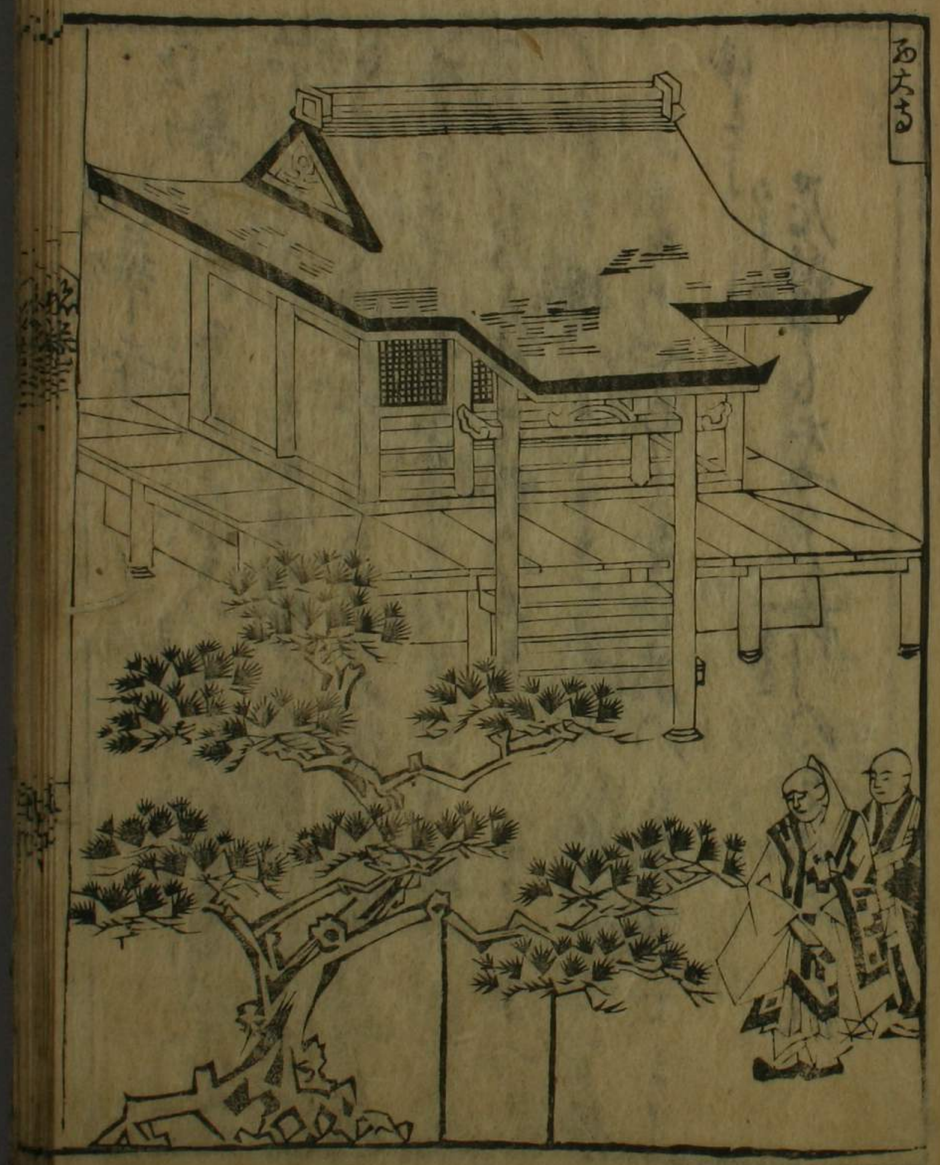
西大寺

南寺ハ大裏の西たりに西大寺と号し二十二町四面りしきりを囲をかまへ都鄙の間院と称し字名の精舎金堂ハ丈六の光明如来ハ宋の名工運慶の作なり此号ハ法華山浄土寺宝塔院極楽天皇の活願所なり天平神護元年和銅元年の造営なり其後弘仁年間橘逸勢の書なり門額ハ国博長産月ハ天皇の御宸筆なり

しきまりんと長七尺八寸ハ唐より異国へ渡りつ持国廣目の二神ハ運慶の作なり

誘そんじゃくと女帝ハ称徳天皇の像なり

よび極楽ひくらけまんとハ二尊ハ共に



仏をば。御しつらひとつくりあらん。
湯の中へ。ぼたをつまをとりあげ。
すこしまゐらせ。そのふ。
箱ものの像をも。
紙袋をば。まこと。
これで注事は一者不得作梵天王二者帝
釈三者魔王四者梵輪聖王五者仏身会仏舎身
こうのえんをばたうへき。即為統仏分

毫ふ深は豊心丹ゥ花とろと

法華寺

法華寺は聖武天皇の后光明皇后の建立
所なり。元亨釋書に伝渡天竺の沙門の
説にそなへたるとかの。猫を背猫は何ぞ牝
牡なりそ。ぱ五尺のとうを
神ことにまとつるとぞ。
つ。そのちつそれよハ蟻のちさきしるあるべし
くもり暗のちさきてあそび遊ぶこうもと蟻
て葉とをりやむことふさえの鳥安をもまし
海をとうし
長谷寺の柳のえのこうれ

一猿沢乃池ハそのうち宮女のえとうこ
とてうつ事あり。くゝ身なげし池こゝ
宋女乃衣あり。衣魚柳わり 榜本人乃守り
わきもこゝ袖くたしたるとうふさハん
いけ乃ゐもと乃うそうあり き
又 拾き集り
わきもとゝ身を捨しうとうはしん
いけ はうこゝやゝ 衣はらひしき
宋ゝ衣魚 柳 池乃うこ

三輪

そさのをの尊の苗裔なる稲田姫生大己貴神とぞいふ所
所りハ社壇なり。大己貴神、天の拔草なり。
大穴持とかゝりたまひ、葦原の醜男ともいふ。
三諸山にいつきまつる也。神武天皇の命とけらるゝを
ありがたきせたまひ、おのれ国ぬしの民病おゝ
ゝ原醜男又大穴持の神。又八十男の神。又大国
主の神ゞ国作大己貴命とかれこれ三輪の明
神出雲御門なり

みわひく三輪の杉むかしうゝかりゝ

新拾遺集

三輪山はたゝれるしかゝるもあ
ゝをのひつゝ雲ゐふるゆ

隆教

杉原の三輪の神まれ山の雪

ゝゝに活動好き趣をゝ登なやきま
まさあゝあゝ。みこの衣裳ゝゝと
事。こゝゝゝ雲ゐとひゝぬゝとゝゝひを
てまつりけるゝ。三輪の神ゞ稲
あゝゝのゝゝしまゝ三輪山ゝひ行ゝな
とゝへゝゝゝ又

杉ゝゝやいゝゝゝゝ三輪の山

大祥祭ハ月二ノ卯ノ日ありてこれを。
中ノ丑ノ日初午とり。冬ハまつり。富の日
初戌とり。ちゝ。ふくろ。貞観年中ふくじまる也

長谷寺

本尊十一面観音　四天王　八代　元正天皇

の御ぎょうりゃくの事　御門　長谷寺

三尾の山ちと寺本　御門　長谷寺

大悲の像とさぐこと　山ちと　安置しこまへり。

菅原　大唐人　吉備の大臣　長谷寺

鄭馬　長の給とよう　吉備　こうしとた。

ちあやうりけるに　吉備　信ぎら

おくの観音　ひとこと　ゆくこと　海　ゆんま

をよう。海　祈　観音　蝶

とうりく　鄭　ようち　祈　ていこと

ひきけるにあとをとめ。字あやまりたるとつ

つ。されば命つぐ　行力　海と

よ唐天竺観音　観音　観音　観音

始定　壊天　本宗　初功　元建

終反　君周　校祖　興治　法主

谷孫　走生　羽祭　成終　事衡

塡田　魚膊　翔世　代天　工翼

孫子　勳戈　葛百　國氏　右輔

昌微　中干　後東　海姥　司為

白失　水寄　胡窄　為爲　國喧

龍游　寨急　城亡　完々　中敦

牛飡　食人　黄赤　與五　青鐘

筋嵐　黒代　雞流　畢鴻　穢外

丹盡　後在　三王　英称　大野

水流　天命　公百　雄星　流飛

鶴の蒔絵の硯箱に墨をすりて乃ち墨ふる筆の穂乃
一輾磨よりかたるは八幡乃神宮あり。蒔絵
たりし。保濃乃絵あり。蒔絵乃硯乃箱
乃ふたなり。畳ハ濃乃苔岸に并松浦とふ
肩衝乃形
一十三種ありけり。色ハ乃ちどりあり
しるつくえ乃ちりり。廉ときりく紙を
ふ海一枚あり。ちご蒔乃さらりて廉のもと
つきたれどたらどころり廉ふりのとすると
ちく乃廉ときりとまりそのつをかりくび神宮
りとたれあるまなまばさきりの法り

をよりて。社殿の格式ふり海乃色形 戦よりるひ
し。呪乃ちり。十三のまばばいの法の絵ふ
ふゆへ十三種ありけり。ありけりもちとこの
と蒔くけりりりりて十三種のふりとひり

般若寺

當寺は聖武天皇の御建立なり堂
内に釋迦の尊像あり。ナミ堂の石塔
かゝるハこゝ西ゝえ毎夕鐘の音聞
ゆるふうげめり。天皇御寢殿の絵畫人金字
の大般若經ありてよつく般若もとつゝ法
性の西門の教ハ法師大師おり
一ゝ左りとつゝ乃祖神とゝらんゝ作りし
こゝ毎ゝ。ゝ乃ゝ祖ゝ神ゝ書ゝ毎ゝ金ゝ字
乃書祝りゝ毎ゝ方ゝ乃ゝ祖ゝ神ゝのゝ作ゝ
ゝりてゝ乃ゝよゝうゝりゝ毎ゝ
と毎ゝずゝハ乃ゝ祖ゝ神ゝのゝ作ゝ

いとたうとき事ありてこれをまのびらさどろふ

又月うり竹乃ふぶ陽やさくかさ門

一般若坂八ふ所にゆるものの入口廿八百乃見葬の

ぢ屋ありてこれよ鹿風病乃ちもへすむとたうろふ

ゆくえの方うり屋うくふどうの石ふくびありてこれ

大科あるを龍よりせこあ乃ふしに燈ろうまりく

の式ありとあせこと河山ろうり燈ふろうけれと

ありてうるにうそ世界乃孫へうふれふぐうもうれ風

いとそうふやをむまあり

非 宮大神也十三のうどう乃麻の令とたうく

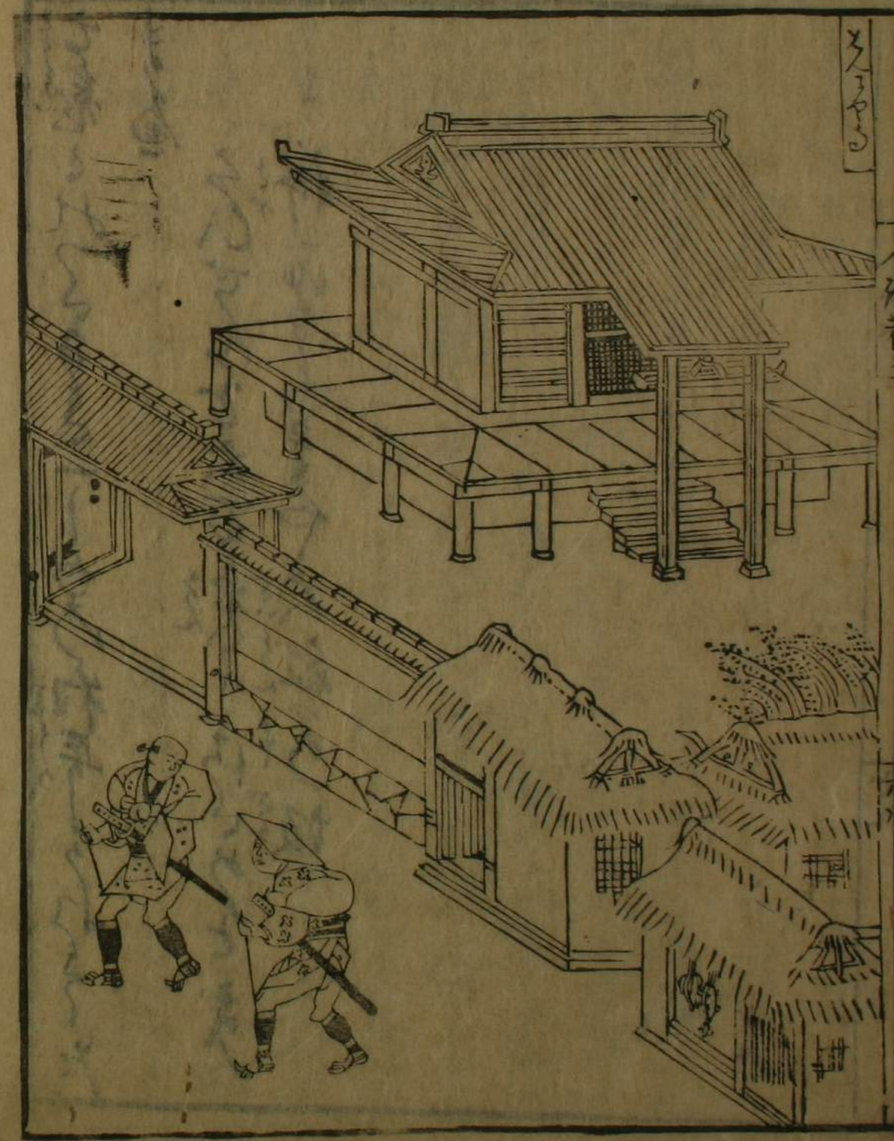
大神うりあふまりやうまりけの志ろうう児乃

ど龍これてうるうと一しの和尊うふうた

まの屋

うひせんを六百黄うけうめをふ

科ゆうそや大般乃坂



書光寺

伽藍ハ行基菩薩の建立なり。本尊ハ弥陀
ノ三尊すなわち行基の作なりとぞ。仁皆
原ものとつ和　聖武天皇ゆきとの知る
光明とそふらくまつ。わく書光寺とも号
和字よみはひらうちふ寺なり

薬師寺

薬師如来　脇士日光月光菩薩

一丈壇像一八幡一丈殊堂

東方月代や御光薬師仏

仏説秘密薬師経

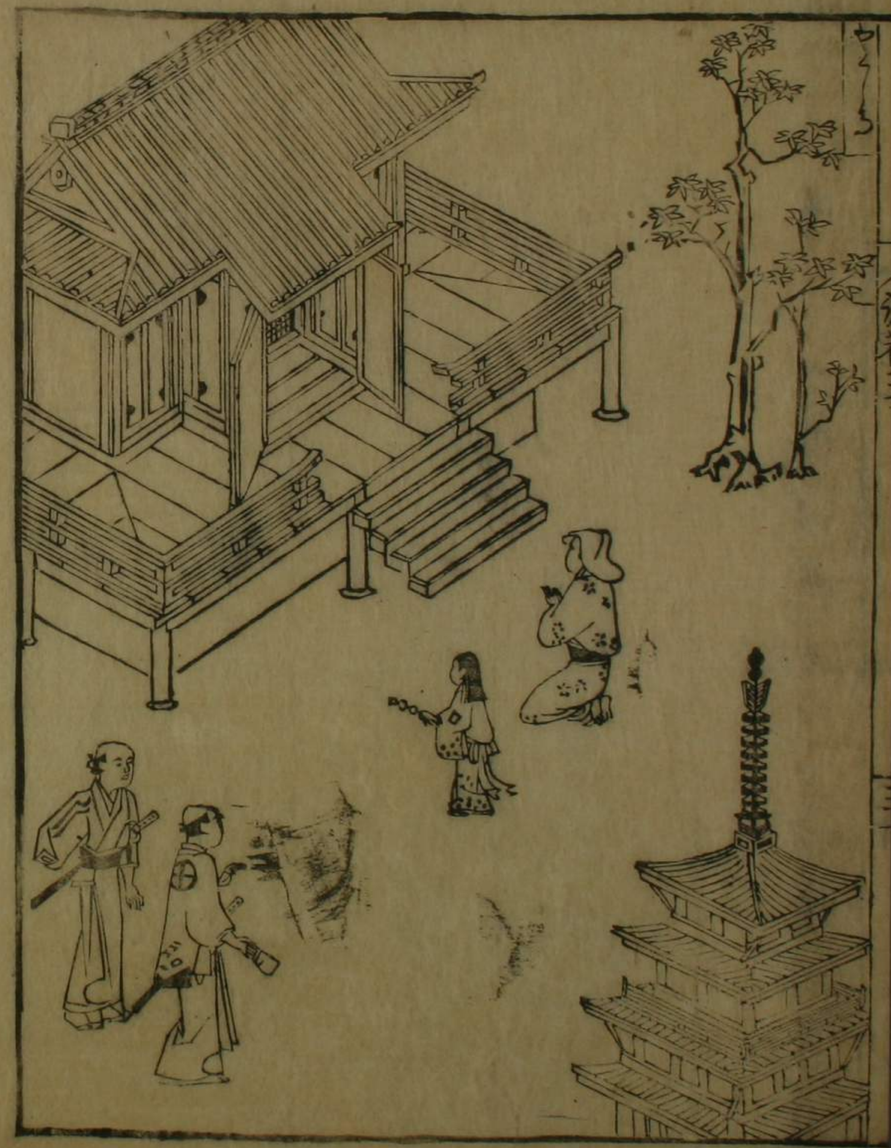
南無薬師瑠璃光如来日光遍照月光大士十二神王

将各七千夜叉同心守護同心如来願

毎月一遍受持者皆天歓喜信受奉行仏説秘

密薬師経

仰ぎ奉れば巳十二神



摂津国 提寺

唐招提寺

此額聖武天皇御震筆

赤梅檀の額四方に集異鶴鹿龍象の雲
霞と御門に掛ひらきて也金利毎日こ
号僧のあつて戒壇天下に名高し
賞花の花盛り新水の池とゝまる日ぞ
恋しそ東大寺の奥猛る此僧面をゆめ
向の雲行くゝ
姫書や新向の神楽乃を

六角壇堂